

医療行動科学 2 : 602-2-DP1・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7・DP8

年次	学期	学則科目責任者
2年次	通年	*有川 量崇 (衛生学)

学修目標 (GIO) と単位数	<p>・学修目標 (GIO) : 本講義の目標は、医学・歯学の進歩、疾病構造と医療構造の変化、そして国民の保健・医療全般にわたる意識の向上と価値観の多様化などの社会状況の変化に十分対応するために必要な知識と医の倫理を身に付けることにある。特に基礎医学が歯科医療にとって必要な知識であることの認識、それらの知識を身に付けたうえで歯科医療に役立てることを目標とする。</p> <p>・単位数 : 2</p>
担当教員	泉福 英信、*青木 伸一郎、*秦 光賢、*中山 洋平、*鈴木 到、*伊藤 龍朗、*田中 陽子、*續橋 治、*齋藤 真規、*神尾 直人、*野田 一、*山口 秀紀、*丹羽 秀夫、*高井 英樹、*清水 真美、*久山 佳代、*内山 敏一、*清水 武彦、*小見山 道、*横山 愛、五十嵐 由里子、*野本 たかと、加藤 治、近藤 信太郎、松野 昌展、吉垣 純子、*村上 洋、*根岸 慎一、*伊藤 誠康、*山本 泰、*中山 壽之、*有川 量崇、田口 千恵子、岡田 優一郎、*飯塚 普子、*北川 剛至、*下坂 典立、*田中 茂男、塩崎 一成、榊 実加、坂爪 陽香、長島 輝明
教科書	各教科の教科書を使用する。 各科目参照。 各科目参照。
評価方法 (EV)	定期試験4回の成績を評価点とする。定期試験が60点を満たない者に対しては再試験を実施する。ただし、全授業時間の1/5以上を欠席した者は、再試験を受ける資格が与えられない。定期試験を欠席し追試験を希望する者は、速やかに正当な理由を証明する書類を提出すること。審議の上、追試験の受験資格の有無を決定する。
学生へのメッセージ オフィスアワー	本講義は、微生物学、免疫学、解剖学、生化学、生理学などの基礎科目と歯科医療との関係性を認識させるものである。よって、臨床科目を担当する講師が臨床の視点から基礎科目の重要性を講義する形となる。本講義を通じて、基礎科目を勉強する意義を理解して、今後の勉学に役立てて欲しい。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/06 (月) 3時限 13:40~15:10	ガイダンス	<p>【授業の一般目標】 医療行動科学2の講義内容、目的を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科臨床と基礎医学の関係を学ぶ。 2. 基礎医学を通じて歯科疾患や歯科治療を知る。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目: 基礎医学の分野に何があるのか調べておく。 ・事前学修時間: 30分 ・事後学修項目: 配布プリントを復習する。 ・事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 学修媒体: 配布プリント、マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム ア 医の倫理 b 医療者の倫理 (ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言など)</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-8 科学的探究 A-8-1 医学研究への志向の涵養 (研究マインドの涵養) ①生命科学の講義・実習で得た知識を、診療で経験した病態の解析に応用できる。</p>	*有川 量崇 田口 千恵子 岡田 優一郎
2026/04/13 (月) 3時限 13:40~15:10	医療プロフェッショナリズム	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するためにプロフェッショナリズムを修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 医療プロフェッショナリズムについて説明できる。 3. 医の倫理と生命倫理の歴史的経過と諸問題を説明できる。 4. 医の倫理に関する規範・国際規範を説明できる。 5. 基本的人権の尊重について概説できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: シラバスを確認し、SBOsの項目を調べる。 プロフェッショナリズムとは、についてネットで調べ自習する。 ・準備学修時間: 30分 ・事後学修項目: 授業時配布資料を振り返る。</p>	*青木 伸一郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/13 (月) 3時限 13:40～15:10	医療プロフェッショナルリズム	<p>・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・スライド、講義内容プリントなどの配布資料</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム ア 医の倫理 a 患者の人権と医療</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム ア 医の倫理 b 医療者の倫理（ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言など） イ 歯科医師と患者・家族との関係 b 患者の権利</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナルリズム A-1-1) 医の倫理と生命倫理 ①医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。 ②医の倫理に関する規範・国際規範（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等）を概説できる。 A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 ①歯科医師のプロフェッショナルリズムを説明できる。 ②患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。 ④歯科医師に課せられた社会的責任と法的責任（刑事責任、民事責任、歯科医師法に基づく行政処分）を説明できる。 ⑤患者に最も適した歯科医療を勧めるとともに、代替する他の方法についても説明できる。</p>	*青木 伸一郎
2026/04/20 (月) 3時限 13:40～15:10	患者中心の医療とコミュニケーション	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を展開するために患者中心の医療とコミュニケーションを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 患者・家族との信頼関係を気付くことの重要性を説明できる。 3. 患者の価値観が多様であることを認識し説明できる。 4. 言語的コミュニケーションについて列挙できる。 5. 非言語コミュニケーションについて列挙できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：シラバスを確認し、SBOsの項目を調べる。 患者中心の医療についてネットで調べ自習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・スライド、講義内容プリントなどの配布資料</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的（医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 c マナー（身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応） d 聴取事項（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望）</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナルリズム A-1-2) 患者中心の視点 ④インフォームド・コンセントの意義と重要性を説明できる。 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1) コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法（言語的・準言語的・非言語的）を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p>	*青木 伸一郎
2026/04/27 (月) 3時限 13:40～15:10	微生物・免疫と歯科臨床	<p>【授業の一般目標】 歯科臨床は基礎科目と密接に関係している。歯科臨床を行う上で基礎科目が必要である理由を微生物、免疫学を通して理解する。</p>	泉福 英信

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	微生物・免疫と歯科臨床	<p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔微生物学を理解することが歯科臨床に繋がることを理解する。 2. 免疫学を理解することが歯科臨床に繋がることを理解する。 3. 口腔微生物が全身疾患の発症に関わることを理解する。 4. 免疫が全身疾患の発症に繋がることを理解する。 5. 基礎科目を学ぶことが将来の歯科臨床に繋がることを理解する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：微生物と免疫に関係性の深い歯科疾患について説明できる。 <p>口腔微生物学 第7版（医歯薬出版）p. 278-361</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時に示したスライド ・事後学修時間：60分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>無し。</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 キ 感染症 b 感染症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 ク 免疫異常 a 免疫不全</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。 C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。</p>	泉福 英信
2026/05/08（金） 3時限 13:40～15:10	微生物・免疫と心臓疾患	<p>【授業の一般目標】</p> <p>感染症心内膜炎やウイルス精神記念の病態生理を理解すること。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 感染性心内膜炎の原因および原因菌を列挙できる。 3. 感染性心内膜炎の症候を列挙できる。 4. ウイルス性心筋炎の症候を列挙できる。 5. ウイルス性心筋炎の治療法を列挙できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：感染性心内膜炎について ・準備学修時間：2時間 ・事後学修項目：ウイルス性心筋炎について ・事後学修時間：1時間 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング無、参考図書；心臨床内科学、今日の治療指針</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 e 感染症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ウ 呼吸・循環器</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。</p>	* 秦 光賢
2026/05/11（月） 3時限 13:40～15:10	微生物・免疫と歯周病	<p>【授業の一般目標】</p> <p>歯周病の臨床像を理解するために、歯周病における歯周病原菌（バイオフィルム）・炎症・免疫のメカニズムを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p>	* 中山 洋平

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/11 (月) 3時限 13:40~15:10	微生物・免疫と歯周病	<p>1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 3. 歯科疾患における歯周病の特徴を説明できる。 4. 歯周病の発症と進行について理解する。 5. 歯周病の症状について理解する。 6. 歯周病の病状安定と治療について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：シラバスを確認し、SBOsの項目を調べる。歯周病とはどのような疾患か、一般的な情報をネットで調べ自習する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・スライド、講義内容プリントなどの配布資料</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 2 口腔・顎顔面の症候 イ 歯周組織</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 キ 感染症 b 感染症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 ⑥歯周組織の発生、構造及び機能を説明できる。 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ③歯周疾患の病因と病態を説明できる。 ④口腔細菌、プラーク（口腔バイオフィーム）及び歯石を説明できる。</p>	*中山 洋平
2026/05/18 (月) 3時限 13:40~15:10	微生物・免疫と公衆衛生・口腔衛生	<p>【授業の一般目標】 歯科医師として活躍する上で必要となる、微生物・免疫と公衆衛生・公衆衛生との関連性を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 微生物が関係する感染症対策について説明できる。 2. 微生物が関係する食品保健について説明できる。 3. 微生物が関係する環境保健について説明できる。 4. 微生物が関係する歯科疾患の予防について説明できる。 5. 微生物・免疫が関係する保健統計について説明できる。 6. 微生物・免疫が関係する地域保健について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：口腔微生物・免疫学および衛生学・公衆衛生学について、図書館などで情報を収集し、関連する内容について整理する。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：講義資料を復習し、歯科医師国家試験の過去問題を解くことで、理解を深める。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・スライド、配布プリント、歯科医師国家試験過去問題集</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 7 感染症対策 ア 感染症対策と疫学 a 主な感染症の疫学と流行状況</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 エ 口腔健康管理 a 口腔衛生管理</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ⑥公衆歯科衛生を概説できる。</p>	*鈴木 到
2026/05/25 (月) 3時限 13:40~15:10	微生物・免疫と小児歯科	<p>【授業の一般目標】 微生物学・免疫学と小児歯科臨床との関連付けができるようになるために、小児齲蝕を微生物学・免疫学的観点から理解する。</p>	*伊藤 龍朗

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	微生物・免疫と小児歯科	<p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 齶蝕の要因について説明できる。 3. 齶蝕原性細菌について説明できる。 4. 微生物学的な齶蝕発症機序について説明できる。 5. 齶蝕に対する防御機構について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：齶蝕の微生物学的要因について学修しておく。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。 ・事後学修時間：60分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：なし、学修媒体：配布資料</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 エ 小児の歯の硬組織疾患 a 齶蝕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 a 齶蝕の病因</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-2) 小児の歯科治療 ①乳歯と幼若永久歯の齶蝕の特徴と予防法を説明できる。</p>	*伊藤 龍朗
2026/06/01（月） 2時限 11:10～12:00	平常試験 1	<p>【授業の一般目標】</p> <p>歯科臨床と基礎医学のつながりを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療プロフェッショナリズムを理解する。 2. 医療とコミュニケーションを理解する。 3. 微生物・免疫と歯科臨床を理解する。 4. 微生物・免疫と心臓疾患を理解する。 5. 微生物・免疫と歯周病を理解する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：医療プロフェッショナリズム、微生物免疫学、心臓疾患、歯周病、公衆衛生、口腔衛生 ・準備学修時間：試験範囲の理解に必要な時間。 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 イ 全身・口腔の生態系 a 微生物の構造・一般性状</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-1) 医の倫理と生命倫理 ②医の倫理に関する規範・国際規範（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等）を概説できる。</p>	*青木 伸一郎 泉福 英信 *秦 光賢 *中山 洋平 *有川 量崇 *鈴木 到 坂爪 陽香 田口 千恵子
2026/06/01（月） 5時限 14:20～14:35	平常試験 1	<p>【授業の一般目標】</p> <p>歯科臨床と基礎医学のつながりを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療プロフェッショナリズムを理解する。 2. 医療とコミュニケーションを理解する。 3. 微生物・免疫と歯科臨床を理解する。 4. 微生物・免疫と心臓疾患を理解する。 5. 微生物・免疫と歯周病を理解する。 	*青木 伸一郎 泉福 英信 *秦 光賢 *中山 洋平

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/01 (月) 5時限 14:20～14:35	平常試験 1	<p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：医療プロフェッショナリズム、微生物免疫学、心臓疾患、歯周病、公衆衛生、口腔衛生 ・準備学修時間：試験範囲の理解に必要な時間。 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>4 人体の正常構造・機能</p> <p>イ 全身・口腔の生態系</p> <p>a 微生物の構造・一般性状</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力</p> <p>A-1 プロフェッショナリズム</p> <p>A-1-1) 医の倫理と生命倫理</p> <p>②医の倫理に関する規範・国際規範（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等）を概説できる。</p>	*青木 伸一郎 泉福 英信 *秦 光賢 *中山 洋平
2026/06/08 (月) 3時限 13:40～15:10	微生物・免疫と障害者歯科	<p>【授業の一般目標】</p> <p>症候群に認められやすい口腔内細菌の働きと異常な免疫応答についての知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 歯周病の罹患率の高い症候群について説明できる。 3. Down症候群に見られる特徴的な免疫応答以上と重度歯周病との関係性について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：歯周病と関係性の深い症候群について説明できる。スペシャルニースデンティストリー第2版（医歯薬出版）P. 289-291 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業時に示したスライド ・事後学修時間：60分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>無し</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>歯科医学総論</p> <p>総論Ⅲ 病因、病態</p> <p>2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態</p> <p>ア 主な病因・病態</p> <p>b 歯・歯周組織の疾患</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学各論</p> <p>各論Ⅰ 成長・発育に関連した疾患・病態</p> <p>1 口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常の病態・特徴</p> <p>エ 染色体異常</p> <p>a Down症候群</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>B 社会と歯学</p> <p>B-1 健康の概念</p> <p>②口腔と全身の健康との関連を説明できる。</p> <p>C 生命科学</p> <p>C-4 感染と免疫</p> <p>C-4-2) 免疫</p> <p>③免疫系担当臓器・細胞の種類と機能を説明できる。</p>	*田中 陽子
2026/06/15 (月) 3時限 13:40～15:10	微生物・免疫と検査	<p>【授業の一般目標】</p> <p>微生物・免疫学と検査について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 3. 細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 4. 主な細菌感染について説明できる。 5. 主なウイルス感染症について説明できる。 6. 感染症の種類と診断書に用いられる検査を説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：細菌、真菌、ウイルス及び原虫の違いを説明できる。 ・準備学修時間：25分 ・事後学修項目：授業配布資料を再読。 ・事後学修時間：15分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>有り・パワーポイント・板書・プリント</p>	*續橋 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/15 (月) 3時限 13:40～15:10	微生物・免疫と検査	<p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 キ 感染症 b 感染症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 9 検査・臨床判断の基本 エ 検体検査の種類 d 免疫血清学検査 e 微生物学検査</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。</p>	*續橋 治
2026/06/22 (月) 3時限 13:40～15:10	微生物・免疫と口腔ケア	<p>【授業の一般目標】 口腔微生物と全身疾患との関連について説明できる。 口腔ケアの重要性について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 2. 歯周病原細菌と全身疾患との関連について説明できる。 3. 齶蝕原性細菌と全身疾患との関連について説明できる。 4. 口腔ケアの重要性について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：微生物・免疫学教科書 (口腔微生物学—感染と免疫— 第7版) P353-356 ・準備学修時間： 30分 ・事後学修項目：配布資料の復習 ・事後学修時間： 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 e 感染症</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。</p>	*齋藤 真規
2026/06/29 (月) 3時限 13:40～15:10	微生物・免疫と歯内療法	<p>【授業の一般目標】 歯内療法学における微生物・免疫基礎知識の必要性を学ぶ</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 炎症の分子メカニズムを説明できる。 2. 歯内における微生物感染について説明できる。 3. 根尖部の炎症反応について理解できる。 4. 歯内・根尖部における感染および炎症を抑える事を理解できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：微生物・免疫・歯内療法学の章 ・準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無、スライド、配布資料</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能</p>	*神尾 直人

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/29 (月) 3時限 13:40～15:10	微生物・免疫と歯 内療法	<p>ア 全身・口腔の構造と機能 a 生体構成成分</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 g 免疫系（免疫系担当細胞・臓器、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫）</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅲ 病因・病態 1 病因・病態 キ 感染症 a 病原微生物 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 歯髄疾患・根尖性歯周疾患 ア 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の病因と病態 b 根尖性歯周疾患 c 歯内-歯周疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子の基盤 C-2-4) 細胞の情報伝達機構 ②ホルモン、成長因子、サイトカイン等の受容体を介する細胞情報伝達機構を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。</p>	*神尾 直人
2026/07/06 (月) 3時限 13:40～15:10	生理学と消化吸収、 肝炎ウイルス（ウ イルス学）	<p>【授業の一般目標】 3大栄養素の消化吸収と、消化吸収障害により引き起こされる疾患について理解する。 肝炎ウイルスと、その感染により惹起される疾患について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 2. 3大栄養素の消化吸収と、消化吸収障害により引き起こされる疾患について説明できる。 3. 肝炎ウイルスと、その感染により惹起される疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：3大栄養素について説明できる。肝炎ウイルスについて説明できる。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：配布資料で復習 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 オ 消化器系 a 消化管 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 c 消化器疾患 i 感染症</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子の基盤 C-2-1) 生命を構成する基本物質 ①アミノ酸とタンパク質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ②糖質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ③脂質の構造、機能及び代謝を説明できる。</p>	*中山 壽之
2026/07/13 (月) 3時限 13:40～15:10	薬理学と口腔外科	<p>【授業の一般目標】 口腔外科診療において使用する薬剤について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 歯科における薬の使用について理解する。 3. 日常診療で用いる薬の作用、副作用について説明できる。 4. 歯科で使用する薬の作用機序について説明できる。</p>	*野田 一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/13 (月) 3時限 13:40～15:10	薬理学と口腔外科	<p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：抗菌薬、白金製剤（抗がん剤）、免疫チェックポイント阻害薬について調べる。 ・準備学修時間：30分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>無</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療 c 化学療法</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ⑤消炎療法の意義と特徴を説明できる。 ⑥主な炎症（舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎等）の症状と治療法を説明できる。 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ⑥ウイルス性唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療を説明できる。 ⑦Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4) - (10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 ⑦口腔・顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を列挙できる。 ⑧口腔・顎顔面領域に症状を現す代謝障害とその症状を列挙できる。 ⑨口腔・顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症とその症状を列挙できる。 E-2-4) - (11) 口腔・顎顔面領域の機能障害 ②摂食嚥下障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。 ④味覚障害の原因、診察、検査、診断及び治療方針を説明できる。</p>	*野田 一
2026/08/17 (月) 2時限 11:10～12:00	平常試験 2	<p>【授業の一般目標】</p> <p>歯科臨床と基礎医学のつながりを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物・免疫と小児歯科との関係性を理解する。 2. 微生物・免疫と障害者歯科との関係性を理解する。 3. 微生物・免疫における検査について理解する。 4. 微生物・免疫と口腔ケアの関係性について理解する。 5. 生化学と口腔外科との関係性について理解する。 6. 生理学と消化吸収、肝炎ウイルスについて理解する。 7. 薬理学と口腔外科との関係性について理解する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：医療プロフェッショナルリズム、微生物免疫学、障害者歯科、予防歯科、生化学、口腔外科、薬理学 ・準備学修時間：試験範囲の理解に必要な時間。 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項 7 主要症候 イ 口腔・顎顔面領域の症候 a 一般的症候 [疼痛、腫脹、腫瘍、潰瘍、色調、出血、瘻、触診の異常（硬さ、熱感を含む）、機能障害（開口障害を含む）]</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ①口腔の区分と構成要素を説明できる。</p>	泉福 英信 *伊藤 龍朗 *續橋 治 *齋藤 真規 *田中 陽子 *鈴木 到 *神尾 直人
2026/08/17 (月) 5時限 14:20～14:35	平常試験 2	<p>【授業の一般目標】</p> <p>歯科臨床と基礎医学のつながりを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物・免疫と小児歯科との関係性を理解する。 2. 微生物・免疫と障害者歯科との関係性を理解する。 3. 微生物・免疫における検査について理解する。 4. 微生物・免疫と口腔ケアの関係性について理解する。 5. 生化学と口腔外科との関係性について理解する。 6. 生理学と消化吸収、肝炎ウイルスについて理解する。 7. 薬理学と口腔外科との関係性について理解する。 	泉福 英信 *伊藤 龍朗 *續橋 治 *齋藤 真規 *田中 陽子 *鈴木 到 *神尾 直人 *有川 量崇 坂爪 陽香 田口 千恵子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/08/17 (月) 5時限 14:20～14:35	平常試験 2	<p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学修項目：医療プロフェッショナルリズム、微生物免疫学、障害者歯科、予防歯科、生化学、口腔外科、薬理学 ・準備学修時間：試験範囲の理解に必要な時間。 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 イ 口腔・顎顔面領域の症候 a 一般的症候〔疼痛、腫脹、腫瘍、潰瘍、色調、出血、瘻、触診の異常（硬さ、熱感を含む）、機能障害（開口障害を含む）〕</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ①口腔の区分と構成要素を説明できる。</p>	泉福 英信 *伊藤 龍朗 *續橋 治 *齋藤 真規 *田中 陽子 *鈴木 到 *神尾 直人 *有川 量崇 坂爪 陽香 田口 千恵子
2026/09/04 (金) 2時限 11:10～12:40	薬理学と歯科麻酔学	<p>【授業の一般目標】 安全な歯科治療を行うために歯科麻酔・全身管理に用いられる薬物について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 歯科麻酔・全身管理に用いられる薬物について理解する。 3. 歯科麻酔・全身管理における薬物の必要性について説明できる。 4. 歯科麻酔・全身管理に用いる薬物の作用、副作用について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：局所麻酔薬、鎮静薬、全身麻酔薬について調べる。 ・準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 a 局所麻酔</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 b 全身麻酔 c 精神鎮静法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (1) 全身管理 ⑤患者の服用薬物の歯科治療への影響と歯科治療時の対応を説明できる。 E-1-4) - (2) 精神鎮静法 ②吸入鎮静法に使用する薬剤と適応、禁忌及び合併症を説明できる。 ③静脈内鎮静法に使用する薬剤と適応、禁忌及び合併症を説明できる。 E-1-4) - (3) 局所麻酔法 ①局所麻酔の特徴と目的及び種類を説明できる。 ②局所麻酔薬の分類と、その作用機序を説明できる。 ④血管収縮薬の使用目的と種類、特徴及び臨床使用上の注意を説明できる。 E-1-4) - (4) 全身麻酔法 ②全身麻酔時に使用する薬物とその基本的な薬理作用及び使用機器・器具を説明できる。</p>	*下坂 典立
2026/09/07 (月) 2時限 11:10～12:40	耳鼻咽喉科・頭頸部外科と微生物	<p>【授業の一般目標】 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の微生物・免疫学を臨床的見地から理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 2. 耳、鼻副鼻腔、咽頭疾患関連の細菌、ウイルスを理解できる 3. 3. 頭頸部がんに関連するウイルスを理解できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：シラバスを確認し、SBOsの項目を調べる。耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患とはどのような疾患か、一般的な情報をweb環境で調べ学習する。</p>	*丹羽 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/07 (月) 2時限 11:10~12:40	耳鼻咽喉科・頭頸部外科と微生物	<p>・準備学修時間：20分 ・事後学修項目：授業時配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・スライド、講義内容プリントなどの配布資料</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 e 感染症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍・腫瘍類似疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。</p>	*丹羽 秀夫
2026/09/14 (月) 2時限 11:10~12:40	生化学と歯科組織再生医療	<p>【授業の一般目標】 歯周組織再生医療を実践するために、歯周組織再生のメカニズムを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 歯周組織再生法の基本概念を説明できる。 3. ティッシュエンジニアリングにおける三大因子を説明できる。 4. 各種歯周組織再生療法の作用機序を説明できる。 5. 各種歯周組織再生療法の適応症を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：シラバスを確認し、SBOsの項目を調べる。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・スライド、講義内容プリントなどの配布資料</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 j 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ウ 歯周疾患の治療 e 歯周外科治療（歯周組織再生療法）</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 ④歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。</p>	*高井 英樹
2026/09/28 (月) 2時限 11:10~12:40	細胞、免疫と矯正	<p>【授業の一般目標】 矯正歯科治療に伴う生体反応について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 矯正力により歯が移動するメカニズムについて説明できる。 3. 矯正力を負荷した際の圧迫側における歯周組織の変化について説明できる。 4. 矯正力を負荷した際の牽引側における歯周組織の変化について説明できる。 5. 歯根吸収について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：歯、歯周組織を構成する細胞について予習する。 ・準備学修時間：60分 ・事後学修項目：講義プリントの復習。 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア使用、プリント配布。</p> <p>【学修方略（LS）】</p>	*清水 真美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/28 (月) 2時限 11:10～12:40	細胞、免疫と矯正	講義 【場所(教室/実習室)】 206教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長・発育に関連した疾患・病態 8 生体反応 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ⑥矯正治療によって起こる生体反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。	*清水 真美
2026/10/05 (月) 2時限 11:10～12:40	細胞診と口腔疾患	【授業の一般目標】 歯科臨床における病理検査の意義を知り、細胞診の役割を理解する。 【行動目標(SBOs)】 1.病理検査の意義が理解できる。 2.病理検査の種類を列挙できる。 3.治療の流れの中での細胞診の役割を説明できる。 4.細胞診の利点・欠点を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目:シラバスを確認し、SBOsを理解する。 病理検査について自習する。 ・準備学修時間: 30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・事後学修項目:配布資料の振り返り ・事後学修時間:30分 ・アクティブラーニング:なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 206教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 9 検査・臨床判断の基本 キ 病理学検査 a 細胞診 【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 9 検査・臨床判断の基本 キ 病理学検査 b 組織診 【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-1 診療の基本 G-1-1) 臨床診断・治療計画 ①歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。	*久山 佳代
2026/10/15 (木) 2時限 11:10～12:40	歯科材料学と保存修復	【授業の一般目標】 保存修復治療を適切に行うため、材料の基本的性質や特徴および臨床への応用例について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1.歯科材料が保存修復処置でどのように使われるか説明できる。 2.保存修復処置で用いられる材料の種類および特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目:歯科材料と保存修復治療との係わり合いについて説明できる。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 206教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 a 歯の硬組織疾患の治療 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 5 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料 ア 成形修復用材料 a コンポジットレジン	*内山 敏一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/15 (木) 2時限 11:10~12:40	歯科材料学と保存修復	b グラスアイオノマーセメント、レジン添加型グラスアイオノマーセメント 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (1) 齶蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 ③修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。	*内山 敏一
2026/10/19 (月) 2時限 11:10~12:40	歯の発生と小児歯科	【授業の一般目標】 歯の発生と歯の発育障害との関連について修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 歯の発生と各時期に発症する歯の発育障害について理解する。 2. 歯の発育障害の原因について理解する。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：組織学の歯の発生の章 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：歯の発生時期と発育障害について ・事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 206教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論 I 成長・発育に関連した疾患・病態 2 歯の異常 ア 数の異常 a 過剰歯 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 5 人体の発生・成長・発達・加齢変化 ウ 口腔・顎顔面の成長・発育 a 歯・歯列・咬合の発育 (発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢) 歯科医学各論 各論 I 成長・発育に関連した疾患・病態 2 歯の異常 ア 数の異常 b 先天欠如 a 癒合歯、癒着歯、双生歯 b エナメル質形成不全 (症) 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ①口腔・顎顔面領域の発生を説明できる。 ③口腔・顎顔面の成長・発育異常及び不正咬合へ及ぼす影響を説明できる。	*清水 武彦
2026/10/26 (月) 2時限 11:10~12:40	顎関節と咀嚼筋の構造と機能に関する疾患、障害	【授業の一般目標】 顎関節と咀嚼筋の構造と機能に影響を及ぼす疾患、障害を説明できるようになるために、顎関節と咀嚼筋の構造を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 顎関節と咀嚼筋の構造を説明できる。 3. 顎関節と咀嚼筋の機能を説明できる。 4. 顎関節と咀嚼筋の構造と機能に影響を与える疾患、障害を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：顎関節と咀嚼筋の構造を理解しておく。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：顎関節と咀嚼筋の構造と機能に影響を与える疾患、障害を理解する。 ・事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 206教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 II 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 4 頭頸部の構造 イ 頭頸部の骨格系 b 頭蓋骨 (関節、靭帯を含む) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論 II 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 4 頭頸部の構造	*小見山 道

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/26 (月) 2時限 11:10~12:40	顎関節と咀嚼筋の構造と機能に関わる疾患、障害	ウ 頭頸部の筋系 b 咀嚼筋 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ③咀嚼筋、表情筋及び前頸筋の構成と機能を説明できる。 ⑥顎関節の構造と機能を説明できる。	*小見山 道
2026/11/02 (月) 1時限 10:00~10:50	平常試験 1	【授業の一般目標】 歯科臨床と基礎医学のつながりを理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1.薬理学と歯科麻酔学との関係性を理解する。 2.微生物と耳鼻咽喉科・頭頸部外科との関係性を理解する。 3.生化学と歯科組織再生医療との関係性について理解する。 4.細胞・免疫と矯正歯科との関係性について理解する。 5.細胞診と口腔疾患との関連性について理解する。 6.歯科材料学と保存修復との関係性について理解する。 7.組織・発生学と小児歯科との関係性について理解する。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：医療プロフェッショナリズム、微生物免疫学、薬理学、生化学、耳鼻咽喉科学、頭頸部外科学、歯科組織再生医療、歯科矯正学、病理学、組織学、小児歯科学 ・準備学修時間：試験範囲の理解に必要な時間。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 206教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、悪心、嘔吐、下痢 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ⑤歯科疾患のリスク因子を説明できる。	泉福 英信 *丹羽 秀夫 *高井 英樹 *清水 真美 *久山 佳代 *内山 敏一 *清水 武彦 *有川 量崇 坂爪 陽香 田口 千恵子
2026/11/02 (月) 2時限 11:10~12:00	平常試験 1	【授業の一般目標】 歯科臨床と基礎医学のつながりを理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1.薬理学と歯科麻酔学との関係性を理解する。 2.微生物と耳鼻咽喉科・頭頸部外科との関係性を理解する。 3.生化学と歯科組織再生医療との関係性について理解する。 4.細胞・免疫と矯正歯科との関係性について理解する。 5.細胞診と口腔疾患との関連性について理解する。 6.歯科材料学と保存修復との関係性について理解する。 7.組織・発生学と小児歯科との関係性について理解する。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：医療プロフェッショナリズム、微生物免疫学、薬理学、生化学、耳鼻咽喉科学、頭頸部外科学、歯科組織再生医療、歯科矯正学、病理学、組織学、小児歯科学 ・準備学修時間：試験範囲の理解に必要な時間。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 206教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、悪心、嘔吐、下痢 【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ⑤歯科疾患のリスク因子を説明できる。	泉福 英信 *山口 秀紀 *丹羽 秀夫 *高井 英樹 *清水 真美 *久山 佳代 *内山 敏一 *清水 武彦 坂爪 陽香 *有川 量崇 田口 千恵子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/09 (月) 2時限 11:10～12:40	解剖と口腔外科	<p>【授業の一般目標】 口腔外科手術に必要な頭頸部の基本的な構造と機能を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 頭頸部の神経系を説明できる。 2. 頭頸部の脈管系 (血管系とリンパ系) を説明できる。 3. 頭頸部の筋の走行を説明できる。 4. 頭頸部の骨を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: 頭頸部の解剖 ・準備学修時間: 4時間 ・事後学修項目: 頭頸部の神経系、脈管系、筋の走行および骨についての復習 ・事後学修時間: 4時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し。マルチメディアを用いた講義。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 a 生体構成成分</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ①口腔の区分と構成要素を説明できる。</p>	*野田 一
2026/11/16 (月) 2時限 11:10～12:40	摂食嚥下に関わる解剖と生理①	<p>【授業の一般目標】 臨床現場で出会う摂食嚥下障害に対応する力を付けるために必要な解剖学と生理学を学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 摂食嚥下の5期を説明できる。 2. 摂食嚥下に関わる筋の種類と役割を説明できる。 3. 摂食嚥下における感覚の役割を説明できる。 4. 摂食嚥下障害に対する歯科医師の役割を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: 咀嚼と嚥下に関わる筋の働きや起始・停止、神経支配を調べる。 ・準備学修時間: 30分 ・事後学修項目: 摂食嚥下で起こりうる問題点と解決法をまとめる。 ・事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有・グループ討論</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 エ 嚥下 a 摂食嚥下の5期</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 ウ 咀嚼 b 咀嚼運動の調節</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑨嚥下の意義と制御機構を説明できる。</p>	*野本 たかと 塩崎 一成 吉垣 純子 近藤 信太郎 五十嵐 由里子 松野 昌展 加藤 治 *横山 愛 榊 実加
2026/11/30 (月) 2時限 11:10～12:40	摂食嚥下に関わる解剖と生理②	<p>【授業の一般目標】 臨床現場で出会う摂食嚥下障害に対応する力をつけるために必要な解剖学と生理学を学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 摂食嚥下の5期を説明できる。 2. 摂食嚥下に関わる筋の種類と役割を説明できる。 3. 摂食嚥下における感覚の役割を説明できる。 4. 摂食嚥下障害に対する歯科医師の役割を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: 咀嚼と嚥下に関わる筋の働きや起始・停止、神経支配を調べる。 ・準備学修時間: 30分</p>	*野本 たかと 塩崎 一成 吉垣 純子 近藤 信太郎 五十嵐 由里子 松野 昌展 加藤 治 *横山 愛 榊 実加

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/30 (月) 2時限 11:10~12:40	摂食嚥下に関わる解剖と生理②	<p>・事後学修項目：摂食嚥下で起こりうる問題点と解決法をまとめる。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有・グループ討論</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 エ 嚥下 a 摂食嚥下の5期</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 ウ 咀嚼 b 咀嚼運動の調節</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑨口腔・顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。</p>	*野本 たかと 塩崎 一成 吉垣 純子 近藤 信太郎 五十嵐 由里子 松野 昌展 加藤 治 *横山 愛 榊 実加
2026/12/07 (月) 2時限 11:10~12:40	解剖とインプラント	<p>【授業の一般目標】 インプラント治療に必要な基本的な局所解剖を説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 上下顎骨の形態変化と内部構造を説明できる。 3. 治療に関する神経、脈管について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：SBOsの項目を調べる。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：授業内容を振り返る。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングなし スライド、講義内容プリントなどの配布資料</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 2 診察、検査、診断 ア 診察</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 4 頭頸部の構造 エ 頭頸部の脈管系 a 動脈系 b 静脈系 a 脳神経</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ②頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 ④頭頸部の脈管系を説明できる。</p>	*北川 剛至
2026/12/14 (月) 2時限 11:10~12:40	解剖と矯正	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科診断に必要な顎顔面の解剖について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 頭部エックス線規格写真を使用した診断方法について説明できる。 3. 頭部エックス線規格写真の特徴および重要性について説明できる。 4. 頭部エックス線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点・基準平面について ・準備学修時間：60分 ・事後学修項目：授業時配布の資料に基づき必須項目を復習する。 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	*根岸 慎一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/14 (月) 2時限 11:10～12:40	解剖と矯正	<p>アクティブラーニングの有無・無</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 成長・発育に関連した疾患・病態 6 不正咬合の診断 イ 検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-4 矯正歯科・小児歯科治療 E-4-1) 不正咬合の治療 ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。</p>	*根岸 慎一
2026/12/21 (月) 2時限 11:10～12:40	解剖とオーラルフレイル	<p>【授業の一般目標】 オーラルフレイルと関連科目の学修に必要な知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. オーラルフレイルについて説明できる。 2. オーラルフレイルにおける有床義歯の治療の位置づけを説明できる。 3. 有床義歯に関連する解剖を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：オーラルフレイルにおける有床義歯の役割について調べておくこと。 ・準備学修時間：30分 ・事後学修項目：配布プリントを復習する。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し、講義プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 イ 歯の喪失に伴う変化・障害 a 口腔・顎顔面領域の変化・障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 イ 歯の喪失に伴う変化・障害 b 全身への影響 歯科医学各論 各論Ⅴ 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療 1 疾患・病態 オ フレイル</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-3) 組織、器官及び個体の老化 ②老化に伴う細胞、組織、器官及び個体の形態的・機能的な変化を概説できる。 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系 ③全身の主要な筋の肉眼的構造、作用及び神経支配を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ③咀嚼筋、表情筋及び前頸筋の構成と機能を説明できる。 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ④口腔・顎顔面領域の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯 (部分床義歯、全部床義歯) ②可撤性義歯の種類、目的及び意義を説明できる。</p>	*伊藤 誠康 近藤 信太郎
2027/01/18 (月) 1時限 10:00～10:50	平常試験2	<p>【授業の一般目標】 歯科臨床と基礎医学のつながりを理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 顎関節と咀嚼筋の構造と機能について理解する。 2. 解剖学と口腔外科との関係性について理解する。 3. 摂食嚥下に関わる解剖と生理に関して理解する。 4. 解剖学とインプラントとの関係性について理解する。</p>	泉福 英信 吉垣 純子 *小見山 道 *伊藤 誠康 *根岸 慎一 *野本 たかと

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2027/01/18 (月) 1時限 10:00～10:50	平常試験2	<p>5. 解剖学と歯科矯正との関係性について理解する。 6. 解剖学とオーラルフレイルとの関係性について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：顎関節と咀嚼筋の構造、解剖学、生理学、インプラント、歯科矯正学、インプラント、オーラルフレイル ・準備学修時間：試験範囲の理解に必要な時間。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑥顎関節の構造と機能を説明できる。</p>	泉福 英信 吉垣 純子 *小見山 道 *伊藤 誠康 *根岸 慎一 *野本 たかと
2027/01/18 (月) 2時限 11:10～12:00	平常試験2	<p>【授業の一般目標】 歯科臨床と基礎医学のつながりを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 顎関節と咀嚼筋の構造と機能について理解する。 2. 解剖学と口腔外科との関係性について理解する。 3. 摂食嚥下に関わる解剖と生理に関して理解する。 4. 解剖学とインプラントとの関係性について理解する。 5. 解剖学と歯科矯正との関係性について理解する。 6. 解剖学とオーラルフレイルとの関係性について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：顎関節と咀嚼筋の構造、解剖学、生理学、インプラント、歯科矯正学、インプラント、オーラルフレイル ・準備学修時間：試験範囲の理解に必要な時間。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑥顎関節の構造と機能を説明できる。</p>	泉福 英信 吉垣 純子 *小見山 道 *伊藤 誠康 *根岸 慎一 *野本 たかと